

令和 6 年度
大阪市 重症心身障がい児者医療コーディネート事業
実績報告書

事業主体：大阪市健康局

実績報告者：社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
(受託先医療機関) 重症心身障がい児者医療コーディネート事業室

2025 年（令和 7 年）3 月

事業の概要（仕様書）

1. 受託事業名称

重症心身障がい児者医療コーディネート事業

2. 事業の目的

大阪市内在住で、在宅療養の重症心身障がい児者（以下「利用者」という）の方が、かかりつけ医で対応できない等、急病になった場合に医療コーディネートを行う事業で、専任のコーディネーター（医師・看護師）を配置し、利用者の基礎疾患等情報の登録・管理を行うことにより、急病時における相談、症状に合わせた一時受け入れや応急処置、連携医療機関への受け入れ調整業務を行うことにより、円滑な受入態勢の構築や適正な医療の提供へつなげることを目的とする。

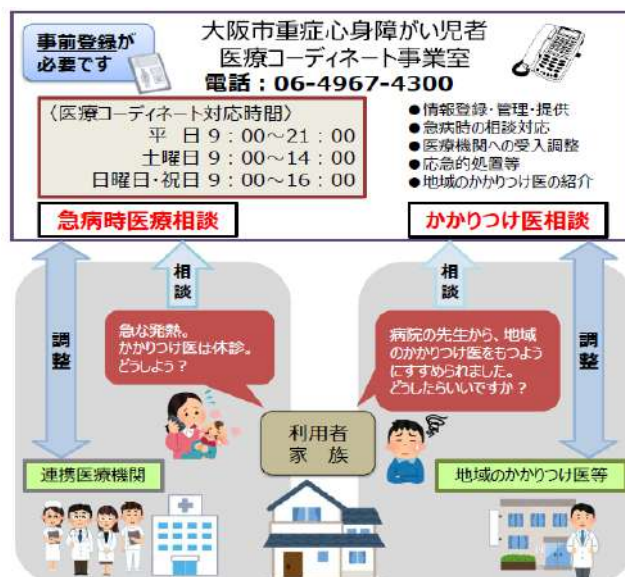
3. 対象者（利用者）

大阪市に住民登録があり、身体障がい者手帳 1 級又は 2 級、かつ療育手帳 A を交付された重症児者を対象とする。

4. 業務内容

- ①重症児者情報の新規登録・管理業務
- ②既登録者に対する情報更新・変更・管理業務
- ③登録者に対する本業務の周知啓発業務
- ④重症児者の急病時対応業務
- ⑤登録者が入院した後の転院支援業務
- ⑥医療機関等の医療従事者に対する人材育成業務
- ⑦地域かかりつけ医（協力医療機関）の確保・紹介業務
- ⑧連携医療機関に対する報告業務

5. 事業のイメージ図



令和6年度 大阪市重症心身障がい児者医療コーディネート事業活動報告

I. 登録の実際と現況

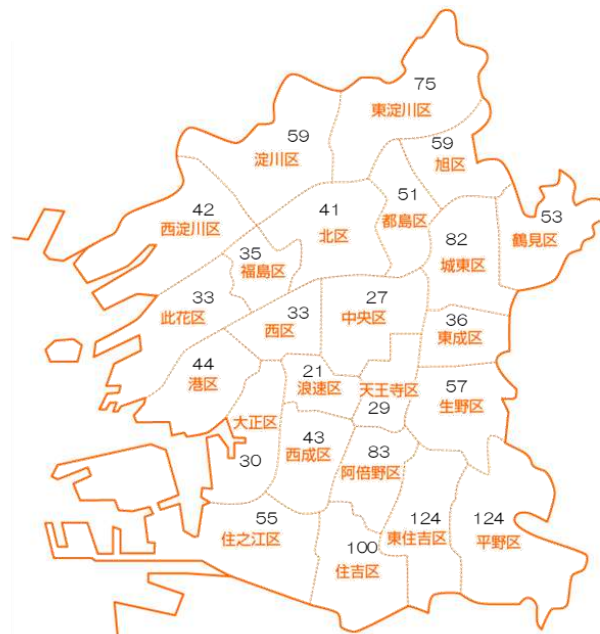
1. 登録者数（令和6年4月～令和7年3月）

登録対象者数	登録者数	新規登録者数	除票者数
2,190 名	1,336 名 (61.0%)	51 名	32 名

※平成26年10月～令和7年3月：述べ登録者総数 1,604 名、除票総数 268 名

<登録者分布図>

(数字は登録者数)



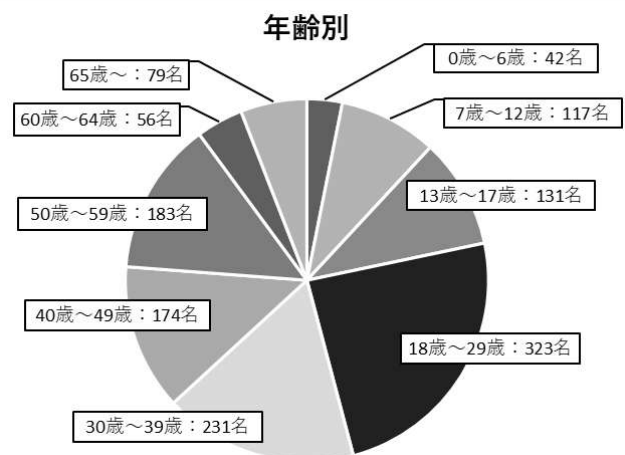
2. 登録者内訳

総数	男性	女性
1,336 名	708 名 (53.0%)	628 名 (47.0%)

18 歳未満	18 歳以上
290 名 (21.7%)	1,046 名 (78.3%)

年齢別

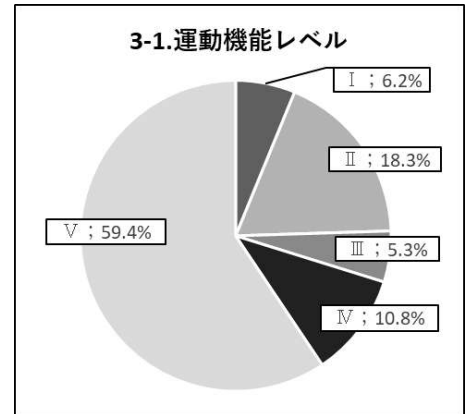
年齢別	令和6年度		【参考】H28年度	
	人数	割合	人数	割合
0歳～6歳	42	3.1%	73	6.9%
7歳～12歳	117	8.8%	117	11.1%
13歳～17歳	131	9.8%	112	10.7%
18歳～29歳	323	24.2%	261	24.8%
30歳～39歳	231	17.3%	161	15.3%
40歳～49歳	174	13.0%	167	15.9%
50歳～59歳	183	13.7%	92	8.8%
60歳～64歳	56	4.2%	30	2.9%
65歳～	79	5.9%	38	3.6%
合計	1336	100.0%	1051	100.0%



※18 歳以上の登録者が全登録者の 78.3%を占めている。

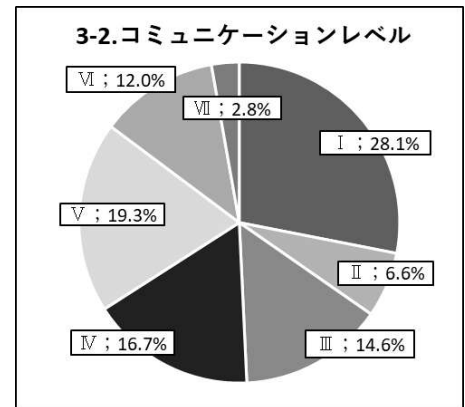
3-1. 運動機能レベル

区分	運動機能レベル	人数	割合
I	走行可・階段昇降可(自力)	83	6.2%
II	歩行可・階段昇降可(手すり使用)	244	18.3%
III	杖歩行可・車いす移動可(自力)	71	5.3%
IV	歩行補助具で歩行可・ 電動車いすで移動可(自力)	144	10.8%
V	車いす移動不可(全介助)	794	59.4%
	合計	1336	100%



3-2. コミュニケーションレベル

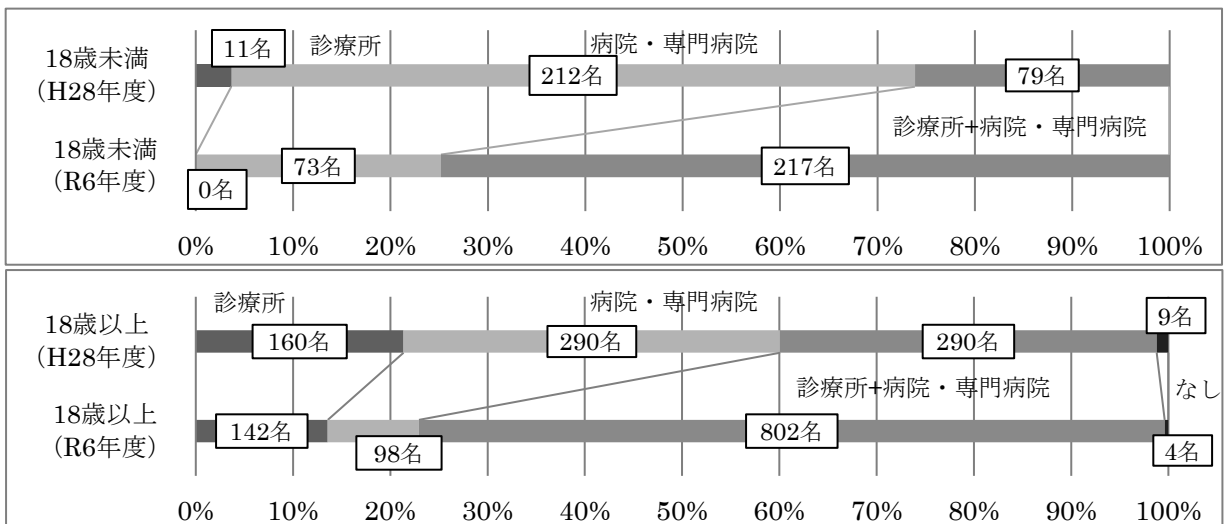
区分	コミュニケーションレベル	人数	割合
I	簡単な会話ができる	375	28.1%
II	有意語がある	88	6.6%
III	要求やYes/Noの表出ができる	195	14.6%
IV	簡単な言葉かけを理解する	223	16.7%
V	呼びかけに反応する	258	19.3%
VI	快・不快の表現をする	160	12.0%
VII	無反応	37	2.8%
	合計	1336	100%



4. 定期受診医療機関の内訳

本事業の効果として「診療所＋病院・専門病院」両方受診する登録者が増えた。

受診機関 年齢	診療所のみ	病院・専門病院 のみ	診療所＋ 病院・専門病院	受診 医療機関 なし	合計
18歳未満	0名(0%)	73名(25.2%)	217名(74.8%)	0名(0%)	290名(100%)
18歳以上	142名(13.6%)	98名(9.4%)	802名(76.7%)	4名(0.4%)	1,046名(100%)
合計	142名(10.6%)	171名(12.8%)	1,019名(76.3%)	4名(0.3%)	1,336名(100%)



5. 医療的ケア 必要者数 365 名 (1,336 名中 : 27.3%)

■ 医療的ケアの有無

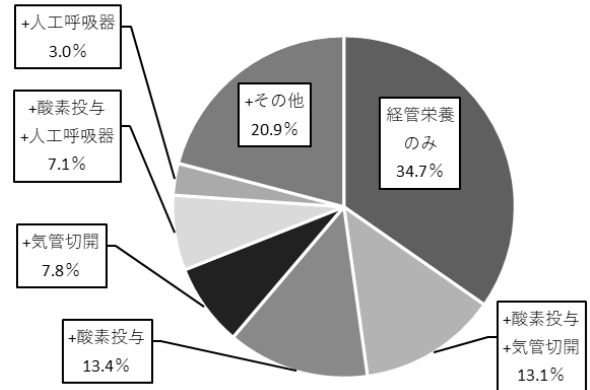
あり	365名
なし	971名
合計	1336名

■ 医療的ケアありの内訳 (重複あり)

経管栄養	酸素投与	気管切開	人工呼吸器
268名	167名	117名	91名

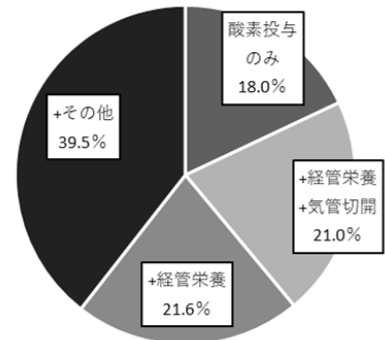
■ 経管栄養ありの内訳

経管栄養 のみ	93名
+ 酸素投与 + 気管切開	35名
+ 酸素投与	36名
+ 気管切開	21名
+ 酸素投与 + 人工呼吸器	19名
+ 人工呼吸器	8名
+ その他	56名
計	268名



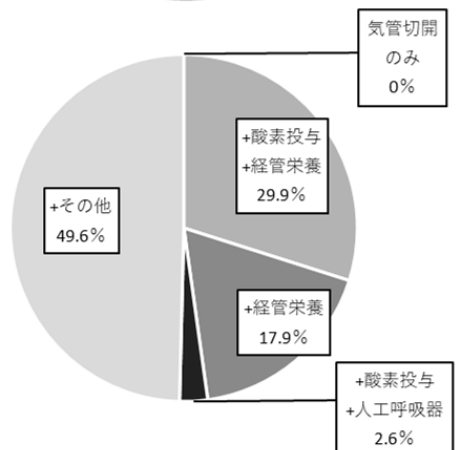
■ 酸素投与ありの内訳

酸素投与 のみ	30名
+ 経管栄養 + 気管切開	35名
+ 経管栄養	36名
+ その他	66名
計	167名



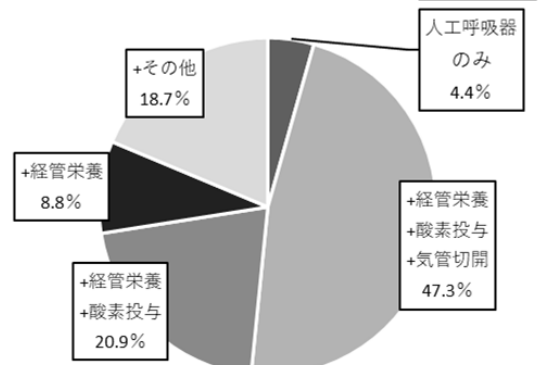
■ 気管切開ありの内訳

気管切開 のみ	0名
+ 酸素投与 + 経管栄養	35名
+ 経管栄養	21名
+ 酸素投与 + 人工呼吸器	3名
+ その他	58名
計	117名

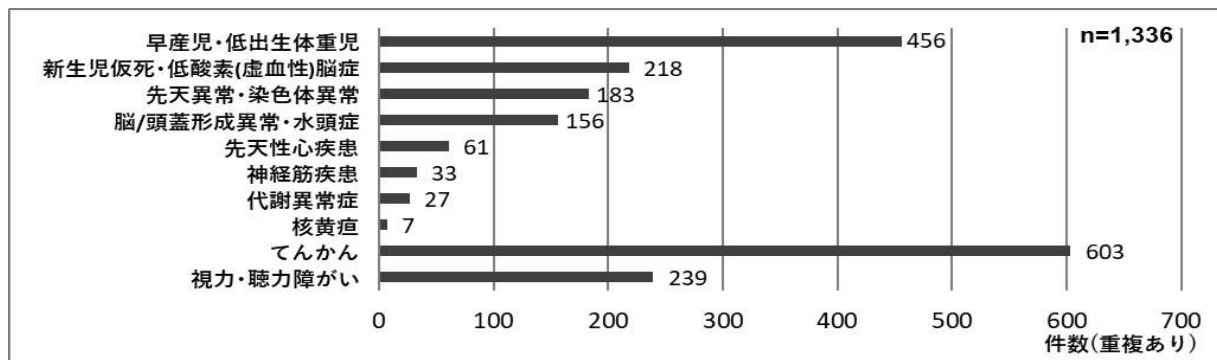


■ 人工呼吸器ありの内訳

人工呼吸器 のみ	4名
+ 経管栄養 + 酸素投与 + 気管切開	43名
+ 経管栄養 + 酸素投与	19名
+ 経管栄養	8名
+ その他	17名
計	91名



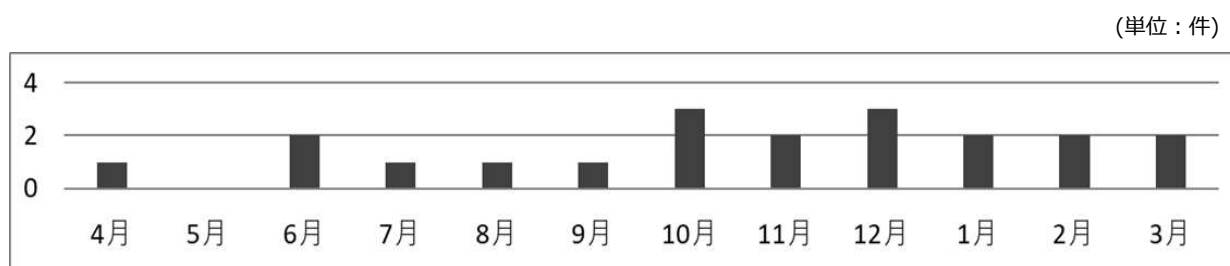
6. 主な基礎疾患の内訳



II. 急病時コーディネート対応

令和6年度の急病時コーディネート対応は20件、うち入院件数は5件であった。コーディネート内容の詳細は別冊に記載する。

1. 月別内訳



2. 主な症状

(単位：件)

発熱	発赤・腫脹・疼痛	咳・咽頭痛	新型コロナ感染	インフルエンザ 疑い	誤嚥性肺炎 疑い	その他
8	3	2	1	1	1	4

3. 対応内訳

(単位：件)

対応相談	受診相談	転院相談	入院相談	合計
8	11	1	0	20

- ①【対応相談】生理前後にミオクローヌ様の不随意運動が起こる。症状持続時の薬の使い方の相談。
- ②【受診相談】腰から股関節にかけて痛みがあり、食事も摂れない。当センター受診希望。
- ③【受診相談】40℃の発熱、経口摂取できずかかりつけ医受診も症状持続。対応できる受診先紹介希望。
- ④【対応相談】呼吸が荒く SpO2 も低下傾向。誤嚥性肺炎の既往があるため対応について相談。
- ⑤【対応相談】帰省中に倦怠感・めまいがあり、他県にいるため対応について相談。
- ⑥【受診相談】短期入所退所後に 39℃の発熱。施設にコロナ陽性者がおり検査可能な受診先紹介希望。
- ⑦【受診相談】仙骨部に表皮剥離・腫脹・熱感を認め、疼痛の訴えあり。受診先紹介希望。
- ⑧【対応相談】38℃の発熱、解熱座薬を使用するも再び 39℃以上に上昇。対応について相談。
- ⑨【受診相談】咳・38.5℃の発熱症状持続。耳鼻科より内科受診を勧められ、かかりつけ医紹介希望。
- ⑩【受診相談】リハ入所外泊中に 38℃の発熱、分泌物増加し頻回な吸引が必要。受診先紹介希望。
- ⑪【受診相談】バギーに下肢を挟まれ痛みで動かさない。外観上の異常はないが、受診先紹介希望。
- ⑫【対応相談】発熱、肺炎既往あり医療機関に相談も受入不可。発熱持続し呼吸苦のため対応相談。
- ⑬【受診相談】38℃の発熱・咳・鼻汁あり。母はインフルエンザ罹患中。受診先紹介希望。
- ⑭【受診相談】前日から 38℃の発熱、相談当日は 39℃。他感冒症状はないが受診先紹介希望。
- ⑮【対応相談】39℃の発熱持続、解熱剤・ダイアップ等で対応。自宅のコロナキットで陽性、対応相談。
- ⑯【対応相談】37.9℃の発熱。母 1 人での受診困難(体重 78kg)。対応相談。
- ⑰【対応相談】再び 37.5℃の発熱。内科受診を勧められ対応相談。
- ⑱【受診相談】右眼下の腫脹。受診先の相談。
- ⑲【転院相談】短期入所中、咳・38℃の発熱・呼吸状態不安定。独居のため転院先紹介希望。
- ⑳【受診相談】咳が止まらず内科・耳鼻科受診、内服処方も効果なく、他医療機関を紹介希望。

Ⅲ. 相談対応

電話または窓口での相談対応は、急病対応に関する相談、かかりつけ医等紹介に関する相談、かかりつけ医等確保に関する相談、それ以外の相談に分類される。それ以外の相談対応では、例年同様、登録や事業内容・利用方法の確認が挙げられ、このことが事業の周知啓発の一助となっている。

また、相談者としては、第三者である相談員・施設職員・介護ヘルパーなどからの事業内容等の問い合わせが年々増加している。この背景としては登録者の施設入所や保護者の高齢化が考えられる。

かかりつけ医等紹介に関する相談においては、「成人期移行」を踏まえた紹介先の相談が増えている。

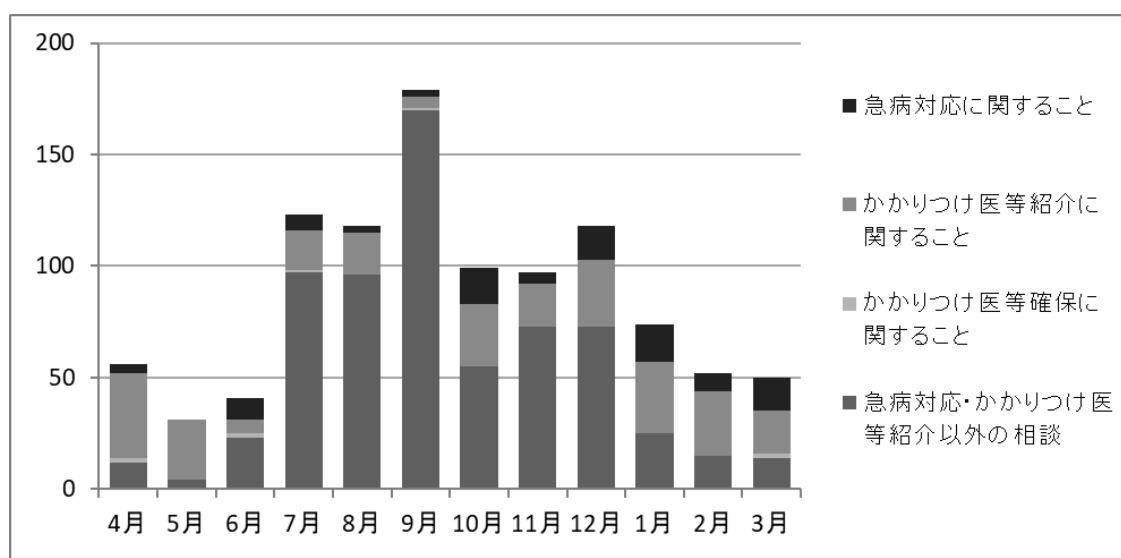
1. 相談方法

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	52	28	40	95	92	157	85	92	114	72	47	48	922
窓口・訪問	4	3	1	28	26	22	14	5	4	2	5	2	116
計	56	31	41	123	118	179	99	97	118	74	52	50	1038

2. 相談内容

(件数)



< 急病対応及びかかりつけ医等紹介以外の主な相談内容 >

◎医療相談

- ・登録者本人の症状は安定しているが、介護者の病気により介護ができず登録者の入院希望の相談。
- ・介護者の高齢化や登録者の状態により受診ができなくなった。今後どうしたらよいか。
- ・現在 14 歳、主治医から「成人期移行」により内科を探すように言われたが、小児・成人の間にありどうすればよいのか。

◎登録に関すること

- ・情報登録書は利用している事業所や学校への提出書類に大変役立った。
- ・急病時に当事業を利用して医療機関に受診したかったが、登録できておらず受診先に困ったため、すぐに登録を行った。

◎その他

- ・訪問看護(特にリハビリ)やショートステイ紹介など、在宅生活サポートへの問い合わせ。
- ・障がい者手帳、手当に関する書類作成ができる医療機関の問い合わせ。

Ⅳ. かかりつけ医（協力医療機関）確保

平成 27 年 10 月からの事業の取り組みとして、地域かかりつけ医を持つことで「風邪・熱等の気になる症状での受診や予防接種等に対応してもらえる」、「通院時間や待ち時間が短くてすむ」、「ホームドクターとして小さな心配事も相談できる」ため、平時より受診しやすい医療機関を確保するべく地域の医療機関に依頼を行った結果、令和 6 年 3 月末までに 378 の医療機関より協力いただいている。

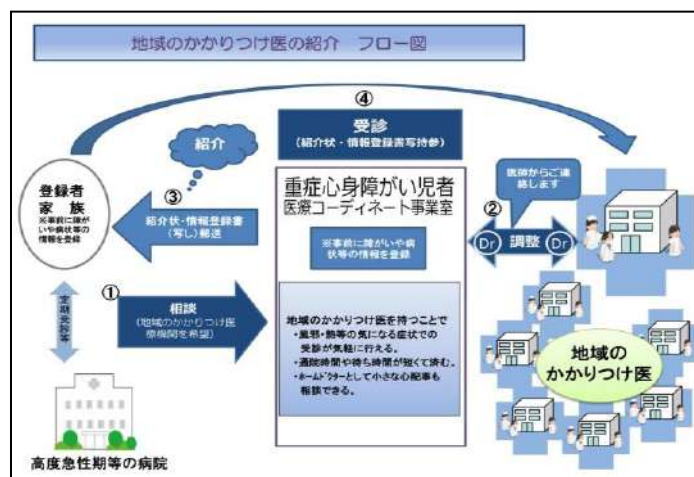
今年度は、大阪市内で新たに開業された内科・小児科と、最近ニーズの高い専門医療機関(皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科等々)を対象に 310 医療機関に対して「協力医療機関登録依頼文書」を送付した。結果、協力医療機関として 28 医療機関に登録いただいた。

また、前年度に引き続き未更新の 147 医療機関に対して「かかりつけ医の登録書の更新」の依頼を行った。令和 7 年 3 月末現在、57 医療機関からの返送をいただき、43 医療機関の継続更新と 14 医療機関の辞退があった。主な辞退の理由は、前年度同様、閉院やスタッフ不足・業務多忙・医師の体調不良等であった。

よって、かかりつけ医協力医療機関は令和 7 年 3 月末現在で 392 医療機関となった。

令和 6 年度新規協力医療機関内訳（重複あり）

・内科/小児科	21 機関	・皮膚科/泌尿器科	11 機関
・外科/整形外科	6 機関	・精神科/心療内科	4 機関
・産婦人科	3 機関	・眼科	2 機関
・耳鼻咽喉科	1 機関	・脳神経内科/神経内科	1 機関



《かかりつけ医（協力医療機関）確保実績表》

令和7年3月31日現在 令和6年度 大阪市 「重症心身障がい児者医療コーディネート事業」 登録かかりつけ医 実績表 令和6年3月末 登録医療機関数 378施設 令和6年度 新規登録医療機関数 28施設 令和6年度 辞退医療機関 ▲ 14施設 令和7年3月末 登録医療機関数 392施設															
現在の協力機関登録数															
協力医療機関数					登録医療機関の内、主たる診療科										
	区名	令和6年 3月末	令和6年度 増減	令和7年 3月末	内科(小児科)	眼科	耳鼻 咽喉科	整形外 科	皮膚科 泌尿器 科	婦人科 ・産科	(小児) (脳)神経 内科	脳神経 外科	精神科 心療内 科	その他 診療科	
1	北区	16	5	21	11	(2)	2	1	7	4	4	1	0	4	0
2	都島区	14	1	15	9	(0)	2	3	2	0	1	0	0	1	1
3	福島区	13	0	13	6	(3)	0	3	4	0	1	0	1	1	0
4	此花区	8	-2	6	4	(2)	0	0	2	0	0	0	1	1	0
5	中央区	16	0	16	10	(2)	0	0	6	5	2	2	1	5	0
6	西区	15	2	17	12	(6)	2	0	1	1	1	1	1	2	2
7	港区	11	0	11	8	(4)	0	1	4	3	0	0	0	2	1
8	大正区	13	0	13	10	(4)	0	1	4	1	0	0	0	1	0
9	天王寺区	15	1	16	12	(4)	1	0	3	4	0	1	0	3	0
10	浪速区	7	0	7	5	(3)	1	0	0	1	0	1	1	2	0
11	西淀川区	12	1	13	13	(6)	0	0	2	2	1	0	0	1	0
12	淀川区	13	1	14	8	(7)	2	1	1	0	0	3	0	3	1
13	東淀川区	14	1	15	10	(1)	1	0	5	1	0	2	1	3	0
14	東成区	15	-1	14	10	(2)	1	0	3	3	0	1	0	1	1
15	生野区	17	0	17	7	(4)	2	1	9	2	0	2	2	2	1
16	旭区	14	1	15	14	(4)	0	0	3	5	1	1	0	2	0
17	城東区	23	0	23	16	(5)	1	1	6	1	1	1	0	3	3
18	鶴見区	10	1	11	9	(3)	1	1	6	3	0	0	0	0	2
19	阿倍野区	24	0	24	16	(6)	2	2	8	3	1	1	4	2	1
20	住之江区	15	1	16	12	(4)	0	1	8	2	0	0	0	1	1
21	住吉区	18	1	19	14	(6)	1	1	5	1	0	1	0	1	0
22	東住吉区	32	-1	31	19	(4)	1	3	17	3	1	0	1	1	1
23	平野区	33	2	35	27	(6)	1	2	15	7	1	1	1	2	0
24	西成区	10	0	10	8	(0)	0	1	3	3	1	1	0	1	1
	合計	378	14	392	270	88	21	23	124	55	16	20	14	45	16
		①	②	③ (①+②)	(重複科あり)										

V. かかりつけ医紹介

今年度は、32 件のかかりつけ医紹介依頼に対応し、22 件のかかりつけ医を紹介できた。

前年度同様「成人期移行支援」に伴い、小児から成人への移行を基幹病院の主治医から勧められた事例や、障がいを持っていても診てもらえる専門医、その他に通院困難のため訪問診療への変更や証明書を作成可能な医療機関など、希望理由は多岐にわたっている。

なお平成 27 年以降、令和 7 年 3 月末現在まで 238 件のかかりつけ医依頼に対応し、137 件のかかりつけ医を紹介できた。

<年齢内訳>

(単位：件)

18 歳未満	18 歳以上	合計
3	19	22

<紹介依頼理由>

内科・小児科	胆石の専門医、風邪や一般的な症状、他区からの転居やかかりつけ医なし、通院困難や成人期移行を機に訪問診療希望、遠方のかかりつけ医から近隣の訪問診療へ変更、診断書を作成してくれる医師
耳鼻咽喉科	アレルギー性鼻炎、耳垢処置
整形外科	頸～上腕痛が持続
脳神経内科	転居により信頼できる専門医、基幹病院からの勧め
婦人科	生理時のミオクローヌスの精査
精神科	自傷行為などを相談できる医療機関

<紹介できた声>

- ・ 介護者の高齢化や登録者の状態変化に伴い通院困難となり、在宅医を紹介してもらい安心した。
- ・ 小児から成人への移行期間に配慮した早めの支援は大変嬉しい。
- ・ 自傷行為が強く家族での対応が困難、相談できる医療機関を紹介してもらえ安心した。

<紹介できなかった理由>

①医療機関サイド

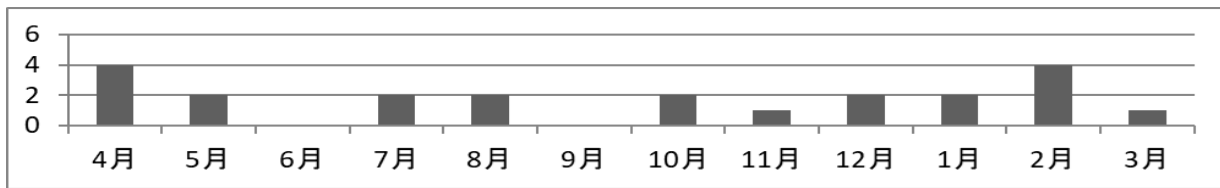
- ・ 対象となる疾患を診たことがない。希望する証明書等の作成ができない。
- ・ 車いすでの受診など環境が合わない。

②登録者サイド

- ・ 紹介先が遠方、希望する診療の条件に合わない。
- ・ 長年診てもらっている医療機関を離れることへの不安から、移行期支援が進まない。
- ・ かかりつけ医紹介を依頼したが、数日後に症状が改善したため紹介が不要となった。

1. かかりつけ医紹介件数（22 件）

（単位：件）



2. 紹介科

（単位：件）

診療科	R6 年度	累計（H27 年 6 月～）
内科・小児科	16	88
耳鼻咽喉科	2	12
眼科	0	8
外科・整形外科	1	6
脳神経内科(小児含む)	1	5
婦人科	1	4
循環器科	0	3
歯科	0	3
精神科	1	2
皮膚科	0	2
脳神経外科	0	2
呼吸器科	0	1
泌尿器科	0	1
合計	22	137

<医療コーディネート通信の発行>

事業の周知啓発を目的に、毎年「医療コーディネート通信」を登録者や連携及び協力医療機関に発行している。

今年度は、新たに関係団体(府医師会・大阪小児科医会・医療的ケア児支援センター・大阪府看護協会・大阪府訪問看護ステーション協会 等)に追加送付した。前年度同様「事業の3本柱」の提示と「情報登録書」を「いのちのパスポート」と称して重要性を強調した。その重要性和必要性が少しずつ理解され、受診時や学校(宿泊行事等)、福祉サービス利用時に携帯しているケースも徐々に増えてきた。また、登録者のご家族様から温かい感謝のお手紙もいただいている。引き続き周知啓発に努めたい。

《登録利用者向け》

登録者分布状況 (1341 人登録者分布)
R6.11.30現在

○対象者数 2190 人
○登録者数 1341 人(61%)

11歳以上 1044 人(78%)
18歳未満 297 人(22%)

医療的ケア者 267 名
★聴覚障害 269 名
★身体障害 189 名
★気管切開 117 名
★人工呼吸器 92 名
(複数あり)

医療コーディネート通信
～ 令和6年度 Ver.1.0 ～

本事業は、医療的ケア児や障害児の医療的ケアや生活支援を目的として、登録者や連携医療機関等に提供される情報通信手段です。登録者や連携医療機関等は、この通信を通じて、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や連携医療機関等からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や連携医療機関等から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

事業の3本柱とは?

- ① 本人・家族の研修
→ 本人・家族の研修
→ 医療機関の研修・相談
→ 連携医療機関の研修及び
→ 連携医療機関の研修及び
→ 「かかりつけ医」の研修・紹介
→ 連携医療機関の研修及び紹介
- ② 医療機関の研修・相談
→ 医療機関の研修・相談
→ 連携医療機関の研修及び
→ 連携医療機関の研修及び
→ 「かかりつけ医」の研修・紹介
→ 連携医療機関の研修及び紹介
- ③ 「かかりつけ医」の研修・紹介
→ 連携医療機関の研修及び紹介
→ 連携医療機関の研修及び
→ 連携医療機関の研修及び
→ 「かかりつけ医」の研修・紹介
→ 連携医療機関の研修及び紹介

事業の3本柱のひととつ ～ 本人・家族の研修 ～

登録者や家族は、毎年1回、大阪府立総合医療センターで研修を受けます。研修では、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や家族からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や家族から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

《医療機関向け》

登録者分布状況 (1341 人登録者分布)
R6.11.30現在

○対象者数 2190 人
○登録者数 1341 人(61%)

11歳以上 1044 人(78%)
18歳未満 297 人(22%)

医療的ケア者 267 名
★聴覚障害 269 名
★身体障害 189 名
★気管切開 117 名
★人工呼吸器 92 名
(複数あり)

医療コーディネート通信
～ 令和6年度 Ver.1.0 ～

本事業は、医療的ケア児や障害児の医療的ケアや生活支援を目的として、登録者や連携医療機関等に提供される情報通信手段です。登録者や連携医療機関等は、この通信を通じて、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や連携医療機関等からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や連携医療機関等から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

事業の3本柱のひととつ ～ 人材育成 ～

登録者や家族は、毎年1回、大阪府立総合医療センターで研修を受けます。研修では、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や家族からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や家族から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

登録者分布状況 (1341 人登録者分布)
R6.11.30現在

○対象者数 2190 人
○登録者数 1341 人(61%)

11歳以上 1044 人(78%)
18歳未満 297 人(22%)

医療的ケア者 267 名
★聴覚障害 269 名
★身体障害 189 名
★気管切開 117 名
★人工呼吸器 92 名
(複数あり)

医療コーディネート通信
～ 令和6年度 Ver.1.0 ～

本事業は、医療的ケア児や障害児の医療的ケアや生活支援を目的として、登録者や連携医療機関等に提供される情報通信手段です。登録者や連携医療機関等は、この通信を通じて、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や連携医療機関等からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や連携医療機関等から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

事業の3本柱のひととつ ～ 急病時対応 ～

登録者や家族は、毎年1回、大阪府立総合医療センターで研修を受けます。研修では、最新の医療情報や生活支援に関する情報を得ることができ、また、登録者や家族からの要望や意見も収集することができ、事業の改善に努めます。

令和6年度 Ver.1.0の通信は、令和5年度 Ver.0.9の通信に比べ、内容が大幅に充実しています。特に、最新の医療情報や生活支援に関する情報は、登録者や家族から収集された情報に基づき、より充実した内容となっています。

VI. 研修

1. 全体研修

今年度も地域で生活されている重症心身障がい児者について、「重症心身障がい児者を理解する」をテーマに、医療従事者等向けに1回、登録者とそのご家族様を対象に1回、合計2回の研修会を行った。

第1回は、普段対応に難渋する「けいれん発作」や「摂食・嚥下」など、その基礎と対応について行った。また、第2回は前年度同様、在宅医療に精通されている先生に講義をいただき、「成人移行支援」について不安をお持ちのご家族様・医療機関の皆様と一緒に考える機会となった。

研修は、多忙な業務で参加ができない事業所や日頃の介護で来場が困難なご家族様への配慮から、来場とオンラインのハイブリッド形式で実施した。

<第1回> 開催日時：令和6年11月17日（日） 9:00～12:30
開催場所：大阪発達総合療育センター（来場及びオンラインにて実施）

テーマ：「重症心身障がい児者を理解する」

<講義>

- ① 重症心身障がい児者医療コーディネート事業の現況
大阪発達総合療育センター 地域医療連携部部長 柏木 淳子（医師）
- ② 「てんかん」という疾患を学ぶ
～けいれん発作時の対応と生活上の管理～
大阪発達総合療育センター 小児科医長 渡辺 陽和（医師）
- ③ 嚥下機能障害の理解と食べることへの支援
大阪発達総合療育センター 摂食・嚥下障害看護認定看護師
牛尾 実有紀（看護師）

<研修状況>



<参加者内訳>

(名)

参加職種	来場参加人数	オンライン参加人数	合計
医師	0	1	1
看護師	6	13	19
他のコメディカル	4	4	8
その他	3	6	9
合計	13	24	37

※他のコメディカル：作業療法士 4 名、理学療法士 3 名、言語聴覚士 1 名

※その他：保育士 3 名、生活支援員・管理者 各 2 名、児童指導員・事務員 各 1 名

<アンケート結果> ※アンケート回答数 31 名、回収率 83.8%

1、研修を知ったきっかけ<複数回答>

(名)

参加職種	①案内状が届いた	②医師会・協会からの情報提供	③ホームページ	④その他
医師	1	0	0	0
看護師	14	2	0	1
他のコメディカル	3	4	0	1
その他	5	0	0	0
合計	23	6	0	2

2、研修参加の理由<複数回答>

(名)

参加職種	①テーマに興味があった	②上司・同僚に勧められた	③協力したいと思った	④その他
医師	1	0	1	0
看護師	15	3	2	1
他のコメディカル	6	3	0	0
その他	5	0	0	0
合計	27	6	3	1

3、満足度

(名)

参加職種	非常に満足	満足	普通	不満
医師	1	0	0	0
看護師	11	6	0	0
他のコメディカル	2	3	2	0
その他	5	0	0	0
合計	19	9	2	0

※他のコメディカル 1 名：無回答

4、テーマごとの感想

① 重症心身障がい児者医療コーディネート事業の現況

- ・利用者の保護者から近くの病院に行って診察してもらえるか尋ねられた時、医療コーディネート事業について知識があれば即答できたと思った。
- ・眼科や歯科等でも障がい児者が受診するのは困難な場合が多いと知った。その時に受け入れのできる医療機関の紹介制度があれば障がい児者やその家族にとってとても助かると思った。
- ・担当している重心児の家族に、コーディネート事業の情報を提供したいと思った。こういった取組があることで地域の重心児を持つ家族が安心して暮らすことができると感じた。
- ・18歳以上の重心児者の多さを知り、介護や養育される親のことなども考える必要があると学んだ。
- ・ご家族の方が横のつながりを求める一方で、閉塞的になりこのような事業を知る機会がないこともあるため、もっと広く理解が深まればいいと思った。
- ・長く活動を継続することでより充実した情報を提供できるようになると思う。広めていきたい活動である。
- ・自分が働いている地域では該当する連携病院が少ない実情を知り、周囲の病院にもこういった活動がより一層広まれば対応しやすいのではないかと感じた。
- ・我々地域の開業医もできることを増やしていかなばと思う。
- ・今回、活用ケースを知ることができて良かった。平時に登録をすることで、利用者の安心感は大きいと思う。心の支えですね。

② 「てんかん」という疾患を学ぶ ～けいれん発生時の対応と生活上の管理～

- ・発作の種類を知ることができ、勉強になった。発作の動画などあればもっと分かりやすかった。普段の状態を把握しておくことも必要だと思った。
- ・発作の分類においてそれぞれの症状の特徴を詳しく教えてもらい知識の向上につながった。
- ・実際に起きた時の対応や生活での制限は必要かどうか、ポイントに沿って説明してもらえたのでケアで実践できそうだと感じた。
- ・支援する側の注意点や発作について理解ができたのでとても参考になった。
- ・てんかんかそうでないかの判断や見分け方がすごく分かりやすかった。
- ・不随意運動なのか発作なのか見分けるのが本当に難しいが、普段の様子をしっかりと観察して違いに気を付けるようにしたいと思う。
- ・てんかんは生活制限が多いと感じていたが、最低限にするという注意点を勘違いしていたと思った。
- ・てんかん発作の対応の中で、まずは「普段の発作の傾向や普段とどう違うのか把握しておくことが重要」ということを改めて意識して取り組んでいこうと思う。
- ・「てんかん」と「てんかん発作」の違いを学べた。現場でてんかん発作に対応することが多いので、どのような発作で薬剤が必要か、危険な環境ではないか等、知っておかなばと再度認識した。
- ・改めて発作時の対応や注意点等が学び直せて、今後、医師に分かりやすく報告するように努めたい。

③ 嚥下機能障害の理解と食べることへの支援

- ・パンやごはんはパサつくため牛乳や汁ものに浸して食べさせていた。しかし、誤嚥のリスクがかなりあると知り、今後は様々なリスクを考慮して介助したい。

- ・口の動きの発達を今まで意識していなかった。これから意識して対応していきたい。
- ・嚥下機能は、高齢者の方でも対応できる内容であり、自身の勉強を深めることができた。
- ・大人の食事訓練に比べて子どもの食事訓練はまず意欲を与えていくことが大切と感じた。本当に難しいからこそ、楽しんでいくことが食の発達につながると思った。
- ・生まれた時からの「食」の獲得ができない影響は、様々な形で現れ、介助方法や嚥下摂食機能の再獲得も多様で複雑。対象によって様々な工夫が必要であることが理解できた。
- ・動画で、実際の嚥下状態や対応を具体的に理解することができた。
- ・食事介助の実施経験や知識も少ないため、実際のポジショニングや介助におけるポイントを基に、今後食事の評価も行っていければと感じた。
- ・発達過程を踏まえた内容であり、担当利用者の摂食について、何が問題なのか理解することができた。
- ・小児期の摂食支援は機能訓練より環境調整が有効なことも多いと聞き、様々なアプローチ方法が得られた。また、子どもに食べてもらえない母親の辛さに寄り添う看護を提供したいと思った。

5、研修の活用法＜複数回答＞

(名)

参加職種	①重症児者 受入の検討	②スタッフ 教育・指導	③自己の 基礎学習	④日常ケアの見 直し	⑤知識・視野 を広げる
医師	1	1	1	1	1
看護師	1	5	13	10	11
他のコメディカル	0	1	7	4	5
その他	0	1	5	3	3
合計	2	8	26	18	20

6、今後の研修会・見学会の希望内容

- ・呼吸リハビリテーション、ポジショニングや呼吸ケアについて
- ・デイスサービス等で実践できる食事姿勢の作り方
- ・口腔内マッサージなどの嚥下機能訓練
- ・重症心身障がい児の感覚遊びについて
- ・急変時対応(車中、学校、施設 等)
- ・呼吸器を利用している重症心身障がい児の観察のポイント、日常生活の工夫
- ・医療的ケアの必要な児者(関わりのある)への研修など

7、その他自由記述(ご意見・ご感想など)

- ・施設見学や在宅人工呼吸器などの医療的ケアを学びたい。
- ・訪問看護の現場に来て初めて重症心身障害者を担当した。手探り状態でケアのヒントを得られて助かっている。
- ・日々子どもたちへの関わり、アセスメントに役立つ内容だった。
- ・時間も短時間で気になるテーマが学べて良かった。
- ・どの講義も現場や普段の関わりに直結し、とても具体的に話を聞くことができ、これからも頑張りたいと思った。

＜第2回＞ 開催日時：令和7年2月9日（日） 12:30～15:30
開催場所：大阪発達総合療育センター（来場及びオンラインにて実施）

テーマ：「重症心身障がい児者を理解する」

＜講義＞

- ① 重症心身障がい児者医療コーディネート事業の現況
大阪発達総合療育センター 地域医療連携部部長 柏木 淳子（医師）
- ② 大阪府医療的ケア児支援センター「相談業務における現場からの声」
大阪府医療的ケア児支援センター コーディネーター 香西 摩矢子（社会福祉士）
- ③ 在宅医療の現場における「成人期移行支援の現状」第2弾
医療法人 輝優会 かがやきクリニック 院長 南條 浩輝（医師）

＜研修状況＞



＜参加者内訳＞

（名）

参加者	来場参加人数	オンライン参加人数	合計
登録者	1	0	1
両親	5	6	11
家族・親族	1	1	2
その他	9	9	18
合計	16	16	32

※その他：看護師9名、理学療法士・作業療法士・社会福祉士・サービス管理責任者・施設管理者・保育士・指導員・児童指導員・相談支援専門員 各1名

<アンケート結果> ※アンケート回収数 26 名、回収率 81%

1、研修を知ったきっかけ<複数回答> (名)

	①案内状が届いた	②医師会・協会からの 情報提供	③ホームページ	④その他
両親	9	0	0	1
家族・親族	2	0	0	0
その他	11	0	0	4
合計	22	0	0	5

<研修を知ったきっかけの理由：その他の記載について>

- ・職場の案内
- ・訪問看護施設からの情報
- ・個別研修時に紹介された
- ・保護者よりの案内
- ・子ども(登録者)が申し込んだ

2、研修参加の理由<複数回答> (名)

	①テーマに興味があった	②上司・同僚に勧められた	③協力したいと思った	④その他
両親	8	0	0	2
家族・親族	2	0	0	0
その他	15	0	0	0
合計	25	0	0	2

<研修参加の理由：その他の記載について>

- ・毎回参加で情報収集
- ・一度は参加して生き方の話を聞きたい

3、満足度 (名)

参加職種	非常に満足	満足	普通	不満
両親	2	7	0	0
家族・親族	1	1	0	0
その他	10	4	1	0
合計	13	12	1	0

4、テーマごとの感想

① 重症心身障がい児者医療コーディネート事業の現況

(ご家族の感想)

- ・医療コーディネートには登録しているが、これまで利用したことはなかった。成人後の方が必要になることが多そうに感じた。10 年後にこの事業が継続かつ充実していることを望んでいる。
- ・重心児のためにたくさん考えてくれている、動いてくれているのが伝わった。
- ・かかりつけ医が休みの時、急な対応かどうかの判断が難しい時に何度か相談している。いざという時に相談できる場があることはとても安心。

・大阪市内の各区において、この制度の利用者が増えてきているようなので、とてもいいことだと思う。こちらのセミナーに参加して初めてこの制度を知り、かかりつけ医を紹介してもらった。障がい児者を持つ親たちに、この情報が広まっていくことが必要だと思う。

(その他の感想)

- ・何をどうして良いかわからない地域の人々にとって、大事なプラットフォームであることが分かった。
- ・命のパスポートの登録がサポートの円滑さを形取っており、小児訪問看護の利用者にも登録を広げていきたいと思った。同時に、逼迫しないように訪問看護での対応がスキルアップできればいいと感じた。
- ・実際のケースを踏まえての説明、利用者の声がより分かりやすいと感じた。周りにも周知していこうと思う。
- ・実際の話を聞くのと聞かないのでは、身近な問題としてのとらえ方が違うと思う。自分自身の意識の範囲が広がったと思う。

② 大阪府医療的ケア児支援センター「相談業務における現場からの声」

(ご家族の感想)

- ・現場と制度の周知の温度差を感じた。
- ・支援者からの相談がメインで、直接連絡する可能性は低いかもしれないが、このような窓口があるのはとても意味があると思う。
- ・家族を使ってほしい。家族は我が子のためにたくさん時間を使って情報収集をしている。それを他の家族のために使うことはできないだろうか。問い合わせを電話だけではなくチャットやメールを使用し、事前に質問内容をフォームに入力することで支援センターの負担が減るのではないかと思う。
- ・相談する場があるのは当事者にとっては安心だと感じた。
- ・センターが早く「医療的ケア児・『者』支援センター」となることを願っている。
- ・とても大切な役割を担っているので、各病院や区役所との連携を強化し保護者に情報が届くようにしてほしい。

(その他の感想)

- ・3箇所スタートの予定のところを1箇所、各市町村の支援員の育成問題など、課題が山積みの中、育成、意識改革も含めてご活躍されていることがよく分かった。
- ・支援者の相談窓口は今までに考えたことがなかったが、相談先のない現状、紹介されている連絡先が少ないことを知った。「家族を使ってください」という声かけにも納得のある講義でした。
- ・普通学校(小学校)への通学に関して、看護師の配置・通学バスや介護タクシー利用など課題は多い。親御さんの不安を聞いてくれる窓口を伝えられるよう調べたい。
- ・「医療的ケア児支援者はスーパーマンじゃないとダメなの？」との問いから、だから『ネットワーク』が必要との流れが、相談支援専門員にとってとても心強い内容でした。『繋ぐ力』をこれからも経験値を積みながら繋げていきたいと思った。
- ・どこに相談していいかわからない状況を整理していかなければ、私たち支援者も、そして何よりも保護者が分かりづらいと改めて学べた。
- ・今回の研修で言われていた「繋ぐ力」で、保護者と共に利用児主体の生活を維持していく仲間づくりが大事なのだと改めて感じた。
- ・現状として、想像していた通り現場との乖離があった。先日報道でもこのテーマが取り上げられており、まだまだ行き届かないことが多いのが医療界全体にいうことだと改めて感じた。

③ 在宅医療の現場における「成人期移行支援の現状」第2弾

(ご家族の感想)

- ・南條先生みたいなドクターが自分の周囲に増えてほしい。
- ・関わっている人との情報共有、連携が大切だと感じた。
- ・今も小児科で診てもらい、入院は成人病棟。老齢期や看取りについても考えなければと思った。ショートステイも入所施設もいっぱい利用できない。ひとり親家庭でフルタイム勤務だった時は、支援制度を利用しようとしても「お母さんが働くための制度ではありません」等、いろいろあった。今は、親の就労も支援の中に入っているなど、時代は少しずついい方向に進んでいると思う。
- ・子どもは成人しているのに、いつまでも近くの病院の小児科に連れていくしかない状況に、フラストレーションを感じていた。成人期移行支援の一環としての医療コーディネートの制度は、障がい児者を持つ親にとって、とても良い解決策だと思う。何かあった時、かかりつけ医がいるととても安心。自分たちだけで悩まず、とても助かる。かかりつけ医の制度を利用して、障がい児者が成人期の医療に移行していくのは、とてもいい方法だと思う。

(その他の感想)

- ・新たな2つめのトランジションについて現状を知ることができた。
- ・事業所の中だけでも他職種の連携は難しいと感じることもあるが、利用者、保護者を思う気持ちは同じ。その気持ちを大切に『連携』していく大切さを改めて感じた。
- ・主治医と訪問医、地域のクリニック、訪看、学校、デイサービスのスタッフ、相談支援、等々たくさんの支援者がいる中、成人へ移行する時に情報が錯綜し、イチから説明が必要となる。周産期から現在までの情報を共有できるツールがもっと普及してほしい。困った時に相談できる医師がいると安心だと思った。
- ・目先の療育だけではなく、重心児や医療的ケア児がどうしたら地域で暮らしていけるようになるか、保護者を交えて他職種の力を借りながら考えていかなければならないと感じた。
- ・早い段階で将来を見据え(保護者の受診付き添いの困難さ等含め)、訪問診療への移行のため、条件に合った成人の訪問医を探すも見つからず、困難感を肌で感じている。地域の訪問医の情報収集と共に、小児科との併用も視野に入れて探すことも必要だと思った。
- ・医療的なケアがもっと身近で安全に実施できるなら、サポートできる人材を増やしたいと思う。サポートだけの問題ではなく、本当の意味での多様性には限界があり、生きづらさを抱える人たちが少しでも生きやすくなるためにもっと知ることが必要であると感じた。

5. 研修の活用法＜複数回答＞

(名)

参加者	①重症児者 受入の検討	②スタッフ 教育・指導	③自己の 基礎学習	④日常ケア の見直し	⑤知識・視 野を広げる	⑥その他
両親	0	0	4	1	5	1
家族・親族	0	0	0	0	2	0
その他	3	6	12	5	15	4
合計	3	6	16	6	22	5

＜研修の活用法：その他の記載について＞

- ・受け入れのための自己学習
- ・他の専門職のコミュニティにつながっていく
- ・ヘルパーへの知識共有
- ・保護者からの不安な気持ちの聞き取り
- ・通っている支援学校やデイサービスとの情報共有

6、今後の研修会・見学会の希望内容

- ・重症心身障がい児の訪問看護の実際
- ・高校卒業の時期を迎える児と家族の就労支援や支援の移行
- ・医療的ケアのない児の在宅生活の様子
- ・重症心身障がい児者の日常的なケアの技術、在宅における呼吸器管理
- ・家族との関わり(家族看護の実際)
- ・医療的ケア児やその家族の ACP の進め方
- ・事例検討会、現場チームのチーム参加型研修
- ・救急搬送を判断するためのアセスメント

7、その他自由記述(ご意見・ご感想など)

- ・自分の子どものことで数年いろいろ悩んでいて、理解を深めるために思い切って話を聞きに来た。いろいろな話が聞けてよかった。これから繋げていきたい。
- ・様々な制度や取り組みが始まり、本人や家族の負担も以前に比べると少しずつ軽減されてきているように思う。これからも実用性の高い制度ができることを願っている。
- ・困っている重心児、医療的ケア児とその保護者の負担を軽減するために私たち事業所はあると思う。どうしたら困っている方と繋がれるのか、そこを繋げられたらもっといろいろな事業所と保護者をマッチングできるのではと思うが難しい。
- ・今の子どもの親世代は、電話より文章にすることで、自分が伝えたいことが明確になることが多々あるため、チャットなどで問い合わせすることができればありがたいと思う。
- ・日々の子どもたちの支援はもちろん、これからの子どもたちの成長を見越した長期の支援を職員間で話し合っていきたいと思う。
- ・利用者として、障がい児者受け入れ施設側の課題や取り組みについて聞いてみたい。
- ・脳性麻痺を受け入れる所、その人達の生活の様子が知りたい。

《全体研修まとめ》

今年度も来場とオンラインの併用で計 2 回の研修会を実施した。

「重症心身障がい児者を理解する」をテーマに、専門的な知識・技術・情報を共有し、より理解を深めることを目的とした。

第 1 回は、医師・看護師・理学療法士等の他、福祉サービス事業所(放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護等)の保育士・生活支援員・児童指導員・管理者・事務員、支援学校の看護師の参加があった。

第 2 回は、登録者様とそのご家族様、看護師・理学療法士等の他、社会福祉士、福祉サービス事業所の参加があった。

また、大阪府医療的ケア児支援センターのコーディネーターから「相談業務における現場からの声」、前年度に引き続き経験豊富な在宅医に「在宅医療の現場における成人移行支援」の課題についてご講演いただいた。

パネルディスカッションでは、登録者とそのご家族様の日頃の思いや支援者側の不安などの意見交換を行い、成人期移行支援の課題を共有する機会となった。

アンケートでは、事業の趣旨や内容を理解でき、事業の必要性や「情報登録書」の重要性も再確認できた。また、成人移行についてご家族様の葛藤やフラストレーションも伺えた。今後、これらの意見を真摯に受け止め、課題へのサポートに向けて取り組みたい。

2. 個別研修

前年度同様、学校看護師や新たに開設された重症心身障がい児者の児童発達・放課後等デイサービス、生活介護からの応募が多く、熱心に受講される姿が印象的であった。

また、日頃関わりのある対象者に対する緊急時対応の希望もあり、直接、訪問医から講義や実技指導を行うなど、より実践的な研修となった。

今後も、地域事業所のニーズの把握に努め、掲げているテーマ「重症心身障がい児者を理解する」の下に、研修の質を高め、広報の幅を拡大していきたい。

<R6 年度個別研修実施一覧>

	月日	研修テーマ・内容	講師名	実施場所	時間	対象（受講人数）
1	4/28	摂食・嚥下の基礎知識を学び、 症例を通して介助方法を知る	牛尾 実有紀	大阪発達総合療育 センター	120 分	児童発達支援事業所 看護師 3 名、保育士 1 名
2	5/10	脳性麻痺児の 呼吸リハビリテーションを学ぶ	河中 真由美	大阪発達総合療育 センター	70 分	児童発達支援事業所 看護師 2 名
3	5/17	児童発達支援事業における 活動（食事介助を含む）を学ぶ	奥村利香/本間美紗都 牛尾実有紀/宮下千紘	児童発達支援事業所 なでしこキッズ	130 分	児童発達支援事業所 看護師 2 名、保育士 1 名
4	7/30	医療的ケア 気管切開について 緊急時対応	渡辺 陽和 谷 佳昂 近江 葵	放課後等デイサービス アエタ	60 分	放課後等デイサービス事業所 看護師 4 名 介護福祉士・支援員・ 登録者家族 各 1 名
5	9/9	精神発達遅滞児へのかかわり方 脳性麻痺児へのハンドリングを学ぶ	須貝 京子	大阪発達総合療育 センター	220 分	児童発達支援事業所 作業療法士 1 名
6	10/1	視覚障害児への個別支援・ アプローチ方法を学ぶ	佐久間 睦 佐藤 邦洋	大阪発達総合療育 センター	105 分	児童発達支援事業所 保育士 2 名、看護師 1 名
7	10/22	医療的ニーズの高い利用者の 入浴介助と医的ケアを学ぶ	細野 恵	生活介護事業所 ひなた	80 分	生活介護事業所 看護師・ 介護福祉士 各 1 名
8	10/29	医療的ニーズの高い利用者への 療育について学ぶ	野田 直子	生活介護事業所 ひなた	90 分	生活介護事業所 看護師・ 介護福祉士 各 1 名
9	12/12	ガイドワイヤーを使用した 胃瘻交換の実施	藤岡 澄司	大阪発達総合療育 センター	60 分	診療所 医師 2 名
10	1/8	重症心身障がい児の呼吸管理と 異常の早期発見を学ぶ	竹本潔/河中真由美 佐藤邦洋	大阪発達総合療育 センター	120 分	支援学校 看護師 3 名
11	1/28	医療的ケア児の療育や 保護者様の悩み等を学び 今後の対応に活かす	岩元 康 末吉 友美 新井 裕美	児童発達支援センター ふたば	90 分	児童発達支援事業所 看護師・指導員・ 管理責任者 各 1 名
12	2/27	緊急時対応を学ぶ （カニューレ抜去・窒息）	塩見 夏子 藤岡 澄司	大阪発達総合療育 センター	90 分	児童発達支援・ 放課後等デイサービス事業所 指導員 2 名 看護師・保育士・ 管理者 各 1 名
13	3/17	医療的ケア児の在宅生活 （入浴介護等）を学ぶ	南 智子 田中 久美子	訪問看護ステーション めぐみ 利用者様宅	90 分	訪問看護ステーション 看護師 2 名

VII. その他：事業の DX 化

1) 情報発信

メールアドレス登録をすすめ、研修会や医療コーディネート通信のメールによる情報発信を行った。

2) 情報登録書の更新

登録者の更新率向上のため、郵送に加え、メールにおける更新手段の検討を進めている。

VIII. まとめ

<総括>

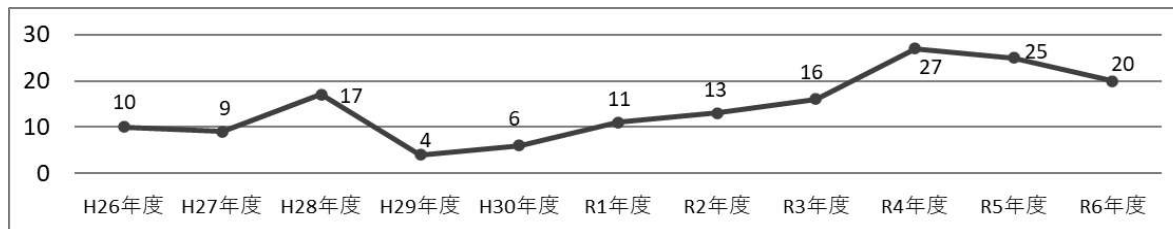
- 1) 51 名が新規に登録し、登録者数は 1,336 名（61.0%）となった。各関係機関のご協力、連携の陰でこの事業が着実に周知され有用に稼働している。
- 2) 登録者数にやや地域の片寄りが見られ、受託先医療機関の所在に関係していると思われる。今後、広報の方法を検討し登録促進を強化していきたい。
- 3) 登録者数のうち 1,046 名（78.3%）が 18 歳以上の障がい者であり、保護者高齢化の問題や、移行期医療の問題は重大となっている。そのため、生活習慣病を含む成人疾患への対応をスムーズにし、地域かかりつけ医療機関や病診連携等各施設との連携強化が益々重要となる。
- 4) 連携医療機関 17 病院だけではなく、多くの医師会の先生方のご協力により地域かかりつけ協力医療機関（診療所）は 392 施設に達した。連携・協力医療機関との連携の強化、顔の見える関係も重要と考える。
- 5) かかりつけ医紹介の相談は 32 件あり、そのうち 22 件の紹介を行った。重心児者の診療が可能なかかりつけ医を探すことは困難なことも多い。小児科からの主治医移行、通院困難なケースの訪問診療、耳鼻科・婦人科・精神科等の受診希望など、相談は多岐にわたっている。
- 6) 研修について、対面とオンライン併用で開催した。全体研修においては、日頃、対応に難渋する「てんかん」や「嚥下」をテーマとし、参加者の反響も大きく熱心に受講される姿勢が感じられた。また、登録者・家族を対象とする研修も年 1 回行っており意見交換の良い場となっている。個別研修においては、地域施設での重心児者の受け入れ拡大に貢献している。
- 7) 大阪市健康局、連携医療機関、協力医療機関、医師会との連携・協力のもと、今後も本事業の内容周知、各医療機関（病院・診療所）の連携、研修を通しての人材育成などに努めたい。

【参考統計】

＜急病時コーディネート対応＞

対応件数の推移（H26年10月～R7年3月 計158件）

（単位：件）



《内訳》

累計：158件（うち後送17件、入院33件）

年齢：18歳未満33件、18歳以上125件（2歳～65歳）

一次対応（当センター受診含む）：88件

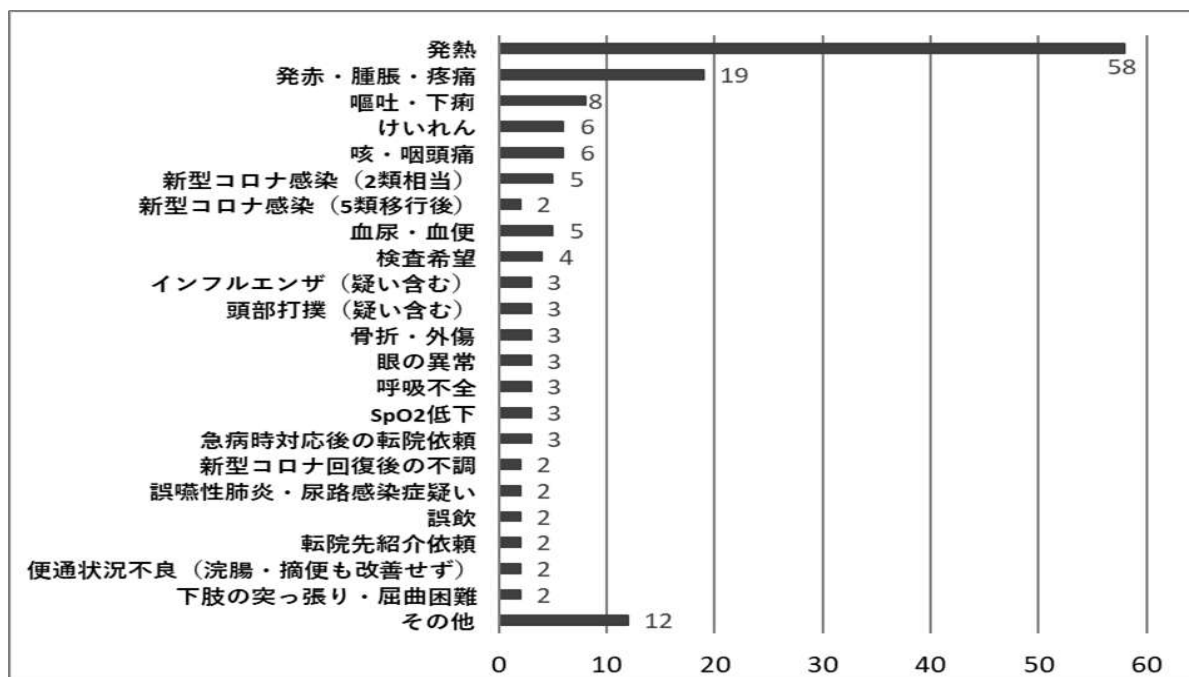
二次・三次医療機関対応（紹介・診療を依頼、受診推奨）：65件

その他（新型コロナウイルス感染のため保健所対応）：5件

紹介科：内科、外科、眼科、小児科、救急診療科、神経内科、脳神経外科、小児神経、
整形外科、嚥下外来、循環器内科、消化器内科、発熱外来、耳鼻咽喉科

主な症状（H26年10月～R7年3月 計158件）

（単位：件）



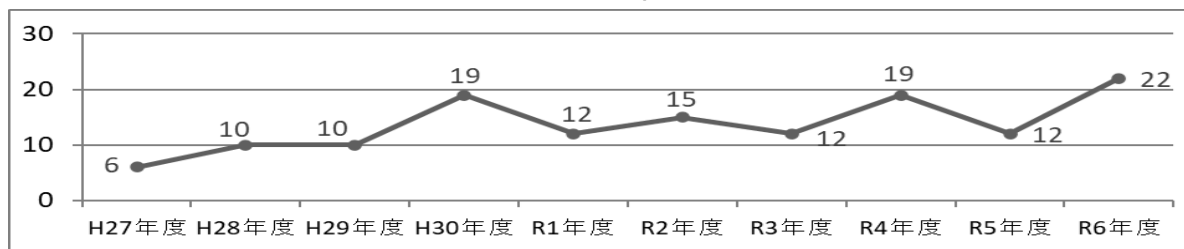
＜相談対応＞

相談対応件数（H26年10月～R7年3月）：累計9,639件、うち医療相談496件(5.1%)

<かかりつけ医紹介>

件数の推移（H27年6月～R7年3月 計137件）

（単位：件）



《依頼総数と構築例の内訳》

かかりつけ医紹介支援の依頼（H27年6月～R7年3月）：238件

かかりつけ医構築可：137件(57.6%)、構築不可：101件(42.4%)

構築例137件中 18歳未満：31件(22.6%)、18歳以上106件(77.4%)

医療的ケア必要例32件(23.4%)

32件中 18歳未満：11件(34.4%)、18歳以上21件(65.6%)

<後記>

「重症心身障がい児者医療コーディネート事業」にご協力いただいた各医療機関の医師、看護師、職員の皆様に心より感謝いたします。今後も利用登録者数、登録率の増加、支援の質の向上、協力機関との円滑な連携を目標とし、重症心身障がい児者とその家族が地域で安心して生活するため、大阪市における重症心身障がい児者医療コーディネート事業を推進してまいります。今後とも関係者皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



重症心身障がい児者医療コーディネート事業室